

たまねぎレポート【第382号】



令和元年8月26日

阪南青果株式会社

社内報

7月の天候は、東・西日本の気温は低く、東日本では7月としては12年ぶりの低温となった。梅雨前線が本州南岸付近に停滞することが多かったことや台風5号、6号の影響で、東・西日本の太平洋側の降水量はかなり多かった。北・東日本の日本海側を除いて全国的に日照時間が少なく、西日本の太平洋側ではかなり少なかった。8月は全国的に高温で各地で最高気温が35℃を上回る日が続いた。札幌では、7月29日から連続10日間最高気温が30℃を上回る真夏日となった。38年振りで、農作物に高温障害が発生している。8月15日には、台風10号が呉付近に上陸、西・東日本で地域的な豪雨に見舞われた。

気象庁の9～11月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北・東・西日本では高い確率50%、沖縄・奄美で平年並み亦は高い確率ともに40%。降水量は、北日本の太平洋側で平年並み亦は多い確率ともに40%。沖縄・奄美では平年並

み亦は少ない確率ともに40%。

9月、北・西日本の日本海側と東日本では、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わるが平年に比べ曇りや雨の日が多い。西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多い。

10月、北日本の日本海側と東日本では、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。西日本と沖縄・奄美では平年と同様に晴れの日が多い。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨亦是雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東・西日本の太平洋側では、晴れの日が多い。沖縄・奄美では、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。

主要(市場)の動き

野菜の概況

7月の建値市場の野菜の販売量は、215,148トン前年比103%で、福岡以外の市場は前年比増であった。市場別では多少の差はあるものの、総じては入荷増の価格安であった。平均単価はkg ¥ 230前年比90%となっている。市場別に入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比102%、平均単価はkg ¥ 219前年比88%。東京市場の入荷は前年比102%、平均単価はkg ¥ 243前年比90%。名古屋市場は前年比106%の入荷で、平均単価はkg ¥ 222前年比92%。大阪本場は前年比109%の入荷で、平均単価はkg ¥ 225前年比85%。福岡市場は前年比100%の入荷で、平均単価はkg ¥ 177前年比89%となっている。

建値市場の7月の玉葱販売量は21,352トン前年比105%、平均単価はkg¥86前年比94%となっている。今年の府県産は大豊作型で、肥大球が多く軟質傾向で、品質劣化が早く、3L級は市場価格が安く、加工原料に転用された。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は2,107トン前年比111%、平均単価はkg¥100前年比98%。東京市場の販売量は9,336トン前年比104%、平均単価はkg¥87前年比93%。名古屋市場の販売量は4,229トン前年比105%、平均単価はkg¥81前年比92%。大阪本場の販売量は3,656トン前年比126%、平均単価はkg¥83前年比89%。福岡市場の販売量は2,024トン前年比94%、平均単価はkg¥82前年比95%となっている。

日本農業新聞社の調べでは、全国主要7地区の代表荷受7社の7月の主要野菜14品目の販売量は、90,579トンで前年比1%増、平均単価はkg¥136前年比11%安、過去5年比では7%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ハウレンソウが前年比30%増、ピーマンが23%増、タマネギが9%増など7品目。前年比減の品目は、サトイモが前年比19%減、ナスが15%減、トマトが10%減など6品目。価格が前年比高の品目は、ジャガイモがkg¥155で前年比125%高。サトイモがkg¥569で55%高。ナスがkg¥337で7%高など4品目。前年比安の品目は、ダイコンがkg¥64で前年比31%安。キャベツがkg¥65で31%安。ニンジンがkg¥102で24%安など10品目。なお、タマネギはkg¥77で7%安となっている。

東京都中央卸売市場の7月の野菜の入荷は、120,302トン前年比102%（前月比96%）。平均単価はkg¥243前年比90%（前月比109%）となっている。主要品目で入荷が前年比増の品目は、ダイコンが前年比123%、ハウレンソウが122%、ハクサイが112%など9品目。入荷が前年比減の品目は、ナ

スが前年比71%、キュウリが89%、トマトが90%など6品目。販売単価が前年比高であった品目は、バレイショがkg¥173で前年比238%、サトイモがkg¥580で145%、ナスがkg¥437で120%など4品目。前年比安の品目は、ダイコンがkg76で62%、キャベツがkg¥72で前年比70%、ニンジンがkg¥114で79%など11品目となっている。

東京都中央卸売市場の7月の入荷量と単価

品目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	120,302	102.2	96.2	243	90.2	102.1
たまねぎ	9,336	104.2	83.3	87	93.0	117.6
キャベツ	16,630	107.5	99.9	72	70.0	94.7
レタス	9,123	93.1	115.6	127	84.9	110.4
だいこん	8,790	123.0	121.0	76	62.4	92.7
はくさい	7,566	112.3	119.5	66	88.0	115.8
トマト	7,312	89.6	85.9	308	92.7	121.7
きゅうり	6,595	88.5	95.4	320	90.1	119.0
にんじん	6,266	106.4	96.8	114	78.5	92.7
ばれいしょ	5,068	93.0	66.5	173	237.8	125.4
ねぎ	3,680	103.1	98.6	353	103.9	91.9
かぼちゃ	2,551	115.0	91.3	224	97.9	112.6
ながいも	999	93.6	102.0	328	94.9	95.6
にんにく	239	97.1	86.3	825	87.4	95.4
れんこん	193	70.3	122.2	921	138.6	69.8

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の7月の玉葱の入荷量は、9,336トン前年比104%（前月比83%）であった。府県産の入荷は早生から中晩生に移行したが、豊作で産地在庫が多く、7月も潤沢な入荷が続いた。品質的には軟質で、特に主産地の佐賀物の品質劣化が目立った。平均単価はkg ¥87前年比93%（前月比118%）であった。主力は兵庫物と佐賀物が肩を並べた。兵庫物の入荷は3,334トン前年比111%、占有率は36%で前年比2ポイントアップ。佐賀物は3,324トンの入荷で前年比107%、占有率は36%で前年比1ポイントダウン。香川物は911トンの入荷で前年比85%、占有率は10%で前年比2ポイントダウン。その他では、愛知物は447トン前年比140%。栃木物は355トン前年比135%であった。月平均単価はkg ¥87前年比93%（前月比118%）と前月に比べ上昇に転じたものの荷動きは今ひとつであった。産地別では、兵庫物はkg ¥92前年比90%。佐賀物はkg ¥84前年比93%。香川物はkg ¥83前年比91%となっている。

8月になっても、相場に変化はなく、主力の佐賀物は7月の品質劣化から品種が変わり安定化し、球流れもL中心となったが、荷動きは今ひとつであった。兵庫物は、主要荷受けに集約した入荷となったが、指値高で荷動きは芳しくなかった。北海物の入荷が始まったものの、府県産地や流通段階での在庫増で、いずれの荷受けも府県物の販売を先行したことで、北海物の販売が先延ばし傾向となった。昨今の佐賀物はクレームは少なくなったが、棚持ちの悪さで安値販売が続いている。兵庫物には黒黴が散見され警戒心が強まっている。1日～20日の販売量は、5,535トン前年比92%、平均単価はkg ¥90前年比78%。産地別では、兵庫物が1,917トン前年比80%、平均単価はkg ¥94前年比7

2%。北海物は1、831トン前年比91%、平均単価はkg¥90前年比82%。佐賀物は1、290トン前年比132%、平均単価はkg¥89前年比79%。となっている。昨今、学校給食需要を控え、2Lの引き合いが強まっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の7月の玉葱販売量は、4、729トン前年比105%（前月比100%）で前年比増で前月とほぼ同量であった。主力は兵庫物で販売量は2、981トン前年比112%、占有率は63%前年比4ポイントアップ。北海物の販売量は736トン前年比87%、占有率は16%前年比3ポイントダウン。愛知物は、販売量402トン前年比95%、占有率は9%前年比と同じ。平均単価はkg¥81前年比93%（前月比108%）で前年比安、前月比高でやや回復歩調となった。産地別では、兵庫物はkg¥89前年比87%。北海物はkg¥63前年比109%。愛知物はkg¥59で前年比79%。となっている。

8月に入り盆需要を控え、北海物の入荷が始まったが、2Lが少なくL大、L中心の球流れで、相場はL大¥1、800、L¥1、600。動きは今一つ。日毎に北海物の入荷が増加すると予想したが、意外に後ズレ傾向。豊作情報に反し2Lの比率が意外に少なく、注文すると¥1、500と言われている。今年、府県物は産地在庫が多く、8月末までは兵庫物主力の販売が続くと見ている。富山物が週間20トン程度の入荷があるが、品質に難があり買手不在で、受け皿探しに苦心している。盆明けも、北海物の入荷は少なめで、相場はL大¥1、600～、1、500、L¥1、400～1、300の動きである。兵庫物はL¥1、900～1800、黒黴の発生が懸念されているが、今の処クレームの発生は殆どない。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の7月の玉葱の販売量は、3、656トン前年比126%（前月比89%）で前年比増、前月比減であった。府県産のいずれの産地も

在庫増で順調な入荷が続いた。主力の兵庫産(淡路)が先月は後ズレして入荷が前年を下回ったが今月は大幅増となった。兵庫物の販売量は2,340トン前年比127%、占有率64%前年と同率。佐賀物は363トンで前年比127%、占有率10%で前年と同率。岡山物は256トン前年比120%占有率7%で前年と同率。月平均単価はkg¥83前年比89%(前月比97%)で、前年比前月比ともに下回った。兵庫・佐賀物にセリ売りに不向きな下等級が多かった。産地別では、兵庫物はkg¥86前年比84%。佐賀物はkg¥76前年比91%。岡山物がkg¥69前年比110%となっている。

8月に入り、盆需要期を控え佐賀物は人気離散で入荷は減少、北海物の入荷も意外に少なく、上旬は兵庫(淡路)物の占有率が93%を占め、淡路物に対する依存率が高くなった。盆直前には、盆需用の駆け込み需要があり、兵庫物が強含んだ。他方、北海物は指値が高く、買い控えられて低調な動きであった。盆明けからは、兵庫物にも棚もち不良懸念が買参人に漂い、当用買いが強まり荷動きが鈍化した。北海物は盆休みや台風の影響による輸送の乱れ等で、入荷は予想より少なく、L大は強含み、Lは弱含みの動きとなった。8月1日~20の販売量は2,421トン前年比146%、平均単価はkg¥78前年比67%。産地別では、兵庫物は1,957トン前年比149%、平均単価はkg¥77前年比63%。北海物は242トン前年比190%、平均単価はkg¥78前年比76%。愛媛物は87トン前年比578%、平均単価はkg¥99前年比121%。佐賀物は67トン前年比130%、平均単価はkg¥92前年比94%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の7月の玉葱の販売量は、2,024トン前年比94%(前月比88%)で、前年比前月比ともに減であった。佐賀物は前年比増であったが、その他の産地が減少した。主力は佐賀物で販売量は1,277トン前年比

104%、占有率は63%で前年比6ポイントアップ。長崎物は276トンの販売量で前年比76%、占有率14%前年比3ポイントダウン。中国物の販売量は167トン前年比74%、占有率8%で前年と変わらず。平均単価はkg ¥82前年比94%(前月比105%)で前年比安前月比高であった。産地別の平均単価は、佐賀物はkg ¥76前年比89%、長崎物はkg ¥67前年比91%。長崎物は、平戸地区は品質良好で高値であったが、その他の地区は品質劣化で安値であった。中国物はKg ¥82前年比111%となっている。

8月に入って、北海道産地から早や出し出荷の打診や産地情報が寄せられたが、佐賀産地の在庫が多いことで、品質劣化が心配される佐賀物の販売を優先した。北海物は盆前に着荷しても、販売は盆明けからとした。盆明けからは佐賀物と北海物を併売した。量販店では盆明けも佐賀物主力の引き合いで、品質的にも懸念したほどの劣化はなく、順調な入荷が続いた。北海物は盆明けもそれほどの引き合いはなく凡調な動きであった。現在、引き続き長崎(平戸)物が少量入荷しているが、品質が極めて良好で高値販売となっている。北海物はL大、L中心の入荷が続いているが、買参人からは未だ佐賀物の引き合いが強い。1日~20日の玉葱販売量は1,300トン前年比127%、平均単価はkg ¥83前年比80%となっている。

8月26日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷183トン 弱い

北 海 10kgDB2L ¥1,500~ 950、L大 ¥1,700~1,050、L ¥1,400~ 800、
M ¥1,100~1,000。

北 海 20kgNT2L ¥950 ~ 800、L大 ¥1,200~ 800、L ¥1,000~ 800。
M ¥900~

【太田市場】 入荷365 トン 保合

北 海 10kgDB2L ¥1,500～1,300、L大 ¥1,600～1,500、L ¥1,400～1,300、
M ¥1,200～1,100。

佐 賀 20kgDB2L ¥1,200～1,000、L ¥1,200～1,000、M ¥1,000～ 800、

兵 庫 20kgDB2L ¥1,500～1,400、L ¥2,000～1,800、M ¥1,900～1,700。

【名古屋北部】 入荷222 トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,400、L大 ¥1,600～1,500、L ¥1,400～1,300、
M ¥1,300～1,200。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,500～1,400、L ¥1,900～1,800、 M ¥1,700～1,600。

【大阪本場】 入荷 250 トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥1,400～1,300、L大 ¥1,700～1,550、L ¥1,400～1,300、
M ¥1,200～1,100。

兵 庫 10kgDB2L ¥800 ～ 700、L ¥1,000～ 800、 M ¥900 ～ 700、

兵 庫 20kgDB2L ¥1,400～1,300、L ¥2,000～1,800、M ¥1,800～1,700。

【福岡市場】 入荷111 トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500～1,400、L大 ¥1,800～1,600、L ¥1,700～1,500、
M ¥1,400～1,300。

佐 賀 10kgDB2L ¥800 ～ 700、 L ¥900 ～ 750、 M ¥900 ～ 750。

長 崎 10kgDB2L ¥1,000～ 900、 L ¥1,000～ 900、 M ¥1,000～900。

供給(産地)の動き

府県産地の多くは、此の先出荷の終盤期を迎える。今年はいずれの産地も大豊作亦是豊作で、生産量は大幅増となったが、いずれの産地も球肥大が過大で、軟質のため病害に弱く、正品化率は著しく低下した。高温下で腐敗が多

発したのを始め品質劣化が早く、市場からのクレームが続出した。栽培経験の長い兵庫(淡路)や佐賀を始め、岡山、滋賀、富山、福井等の新興産地も、中晩生は病害による腐敗と黒黴が多発生、此の時期の品質劣化は過去に例がない。と言う。気候の影響に違いはないが、早急な改善策が求められている。他方、北海道産地も、中晩生の肥大期である7月末から8月初めに、稀有の高温少雨の天候に見舞われ、色落ち、枯上がり早まり、地域格差、圃場格差が大きくなり予想された大豊作亦是豊作が危ぶまれている。

府県産地

中晩生の主力産地淡路島では、囲い(短期貯蔵)の在庫が多く、出荷は後ズレ傾向である。今年は、早生の大豊作に続き、中晩生も豊作で反収は7トン以上となり、囲い物にも過大球が多く、首(葉鞘)が太く、肩落ち(肩腐り)や黒黴の発生率が高かった。8月に入り、連日高温多湿に見舞われ病害の進行度が速く、正品化率は著しく低下した。佐賀物に比べ品質が良好とされて来たが、自信が持てなくなって来た。例年、盆明け後の出荷でも、腐敗皆無と言う篤農家でも、今年は13%前後のロスが発生している。玉葱栽培に造詣の深い生産者で、掘り取り後圃場で、数日間天日干し(風乾)をした後、収穫する常習者でも腐敗のロス率が10%前後で異常であると言う。生産者を始め産地関係者は、近年にないロス率の増加に悩まされている。現在の産地関係者の在庫は前年を上回る。淡路島内の冷蔵物の在庫量(他県産を含む)は盆前の8月8日現在26,644トン前年比111%となっている。最終的にはいずれの冷蔵庫も満庫状態になると見ている。

佐賀では、大豊作となった早生の出荷は7月半ばで終了したが、乾腐病の発生で品質低下に苦しんだ。8月出荷の短期貯蔵の中晩生には、乾腐病のほか黒黴が多発生し、市場で評価を落とした。除湿乾燥処理の玉葱は、病害の発生

少なく品質劣化はなかったものの、市況低迷で経済効果は得られなかった。現在の産地在庫は、前年をやや上回るが、既に終盤期を迎えており、9月半ばまでには終了する。

北海道産地

今年の北海道産の栽培面積は12,877ha(道庁の市町村別の集計では14,000haを上回っている)と報告されている。品種別では極早生502ha(栽培比率4%)、早生5,295ha(同41%)、中生6,583ha(同51%)、晩生473ha(同4%)で現在出荷の極早生は球肥大良く、豊作型で正品化率は高い。全体的には、7月半ばまでは、天候に恵まれ生育は順調で5~7日前進化していた。7月下旬の天候は高温早魃傾向で、生育にかなりの地域差が生じた。気象庁の7月の旬別気候表では、下旬の道全域の平均気温は平年比2.6℃高く、降水量は平年比69%、日照時間は平年比92%となっている。作柄が心配されるのは中生と晩生である。8月5日から8日にかけて産地を一巡した時点では、7月末からの高温続きで生育が停滞、葉鞘の色落ちが早く、既に盆明けの状態であった。散水設備の少ない石狩、空知地区は、葉鞘が枯上がり、平年作が精々の状態。上川地区は、草丈がやや短く細めであったが、高台は豊作型、平地は平年作。オホーツク地区は散水設備が完備していることもあり、葉鞘が青く豊作型であった。早生は盆までに根切りが終了した圃場は、総じて豊作型であったが、中晩生は此の先収穫前の天候で多少の変動はあるものの、全道的には当初予想の作柄を下回ると見ている。

輸入産地

7月の輸入は、速報値で22,790トン前年比104%で、前月に続き予想を上回った。中国が主力で、中国物が全体の95%を占めている。国別では中国が21,711トン前年比104%。ニュージーランドが696トン前年比268%。オーストラリヤが370トン前年比60%となっている。

中國、甘肅省の出荷が始まり、需給環境は緩和傾向となり、相場は軟調に転じているが、産地価格は既に底値圏内にあると言われている。この先出荷はピークを迎えるがいずれの産地も、前年の安値を反映して、作付け減となっており、作柄は良好だが、総体的な出回り量は昨年を下回ると予想されている。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・ムキ玉 \$ 7.40、皮付き \$ 6.50~6.00 である。

アメリカ、地域別の作付け面積は入手していないが、貯蔵性玉葱の作付けは前年に比べ大きな変動はないと聴いている。9月積の価格は日本向け50&・C&F・J・ \$ 12.95、SJ・ \$ 11.95、M・ \$ 11.45 の水準でかなり割高である。

9月の市況見通し

今年の玉葱の作柄は、当初府県産も北海産も豊作と予想されていたが、天候の影響でかなり変動した。府県産はいずれの産地も豊作で収量増となったが、品質不良で収入減となった。府県産の球流れは過肥大で大粒化し、3L・2Lが多発、球締りが軟弱で高温多雨の天候に見舞われ、病害が多発生して正品率が著しく低下。市況の低迷と商品化率の低下で、豊作貧乏となった。9月以降の出荷は一部地域の貯蔵物を残して終了する。その後は兵庫(淡路)主力の冷蔵物に切り替わる。病害が進行しなければ、冷蔵物の市況は現在の高値水準を10~20%上回ると予想している。

北海物は出荷の最盛期を迎えるが、全道的な豊作が下方修正される可能性が高く、供給過剰が緩和される可能性が高い。然し、早生の出荷が後ズレ傾向にあり、現在着荷の品物に乾腐病が散見されるなど、品質的に懸念があり、当面市況は現状維持かやや弱含みの推移と見ている。その後は、中晩生の作柄が下方修正となれば、市況の好転が期待されるが11月以降になると思う。

北海物に次ぐ供給量を占める輸入物の動向も秋冬期の市況に影響する。輸

入物が前年比20%前後減少すれば、需給は均衡する。今年は府県・北海産の豊作で輸入の減少が期待されたが、7月までの輸入は予想を上回り、前年並みか前年を上回る水準にある。特に、安定供給を求める加工筋で長期契約が出来る輸入物に指定席が出来ている。原料供給産地は、加工筋が求める安定供給を重視し、契約量の完全供給に努めることが輸入の減少につながる。(了)